

令和2年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



3月号

点字ブロックの日

今では、当たり前のように目にする点字ブロック。1967年3月18日に岡山県の盲学校の近くにある交差点に敷設されたのが世界で初めてだとご存じでしたか。



点字ブロックは、正式名称を「視覚障害者誘導用ブロック」といいます。足裏や白杖で触れることで、視覚障害者の安全な歩行を助けるためのものです。当初は様々なブロックが製造されており、形が統一されていませんでした。現在では、点字ブロックの形が規定され、各自治体の条例等に従って点字ブロックが設置されています。そして、歩道・鉄道駅、公共施設だけではなく、民間の商店の出入り口近くなど、広く設置が進んでいます。

①のような線状のブロックは、誘導ブロックといい、進行方向を示すブロックです。②のような点状のブロックは警告ブロックといい、注意すべき位置を示しています。駅のホームの端や階段前などに設置されています。

一般の方の中には、点字ブロックの上に駐輪・駐車されているような無理解な方もいらっしゃいます。視覚障害者の方が、自転車を倒したり、白杖を折ったりするトラブルやけがをしてしまうこともあります。そのようなことがないように、より多くの方に視覚障害者の方にとっての「命綱」である点字ブロックについて理解いただきたいと思います。

ウィンタースクール

今年度は、コロナ感染拡大防止のため、様々な行事が開催できませんでした。このアイ・あいだよりでも、皆様にご案内するお知らせが減ってしまいました。その中、1月6日、感染防止対策を十分に行い、ウィンタースクールを開催することができました。子どもたちにとって、例年よりも体を動かすことが少ない冬休みだったことだと思います。短い時間ではありましたが、子どもたちの笑顔や笑い声、楽しんでいる姿から、少しリフレッシュできたのではないかと感じました。その活動の一部をぜひ、ご覧ください。



ボーリング・ストラックアウト・トランポリン



「Field Of View」視野をテーマに1年間お話してきました。専門的な語句や図もありましたが、それぞれの症状について少しでもイメージしていただけたなら幸いです。

「視覚障害」と聞くと、視力が悪いと思われがちですが、紹介してきた「視野障害」で困難を感じる方もいます。例えば、「挨拶をするときは、目を合わせなさい」と言われて、目線が合う方もいますが、合わせにくい方もいます。「相手の目を見ましょう」を「相手の声がする方へ、おへそを向けましょう」と伝えることで、体を相手に向けることができます。よくつまずいたり、体を机でぶついたりして「どんくさい」と思われている方が、実は視野の一部が見えていないことがあります。子どもたちの様子をよく見てみると、見えにくさからきていると気づくことができます。

体に合った椅子や机を使う、正しい姿勢を調整するための書見台や拡大読書器などを活用することで目の負担を軽減します。物の位置を決めて環境を整えることで、つまずいたり、物にぶつかったりすることを防ぐことができます。視力や視野、眼疾などによって見え方がそれぞれ違うので、個々にあった支援が必要になります。本人も気付いていない「見えにくさ」を知ることで、周りのサポートや本人の意識の仕方が変わり、少しずつできることが増えることがあると思います。本人も自分の見え方を理解して、その見え方にあった対応を考えることが大切です。

今年度もアイ・あいだよりを、読んでいただきありがとうございました。